

インターバンクの声（2017 年 10 月 30 日）

週末のニューヨーク市場では、米国の第 3・四半期国内総生産 (GDP) 統計が市場予想を上回って 2 期連続の 3% 台を維持したことから、円売り・ドル買いが進んだドル円は 114 円 44 銭まで上昇した。今度こそ 7 月に付けた 114 円 49 銭を越えるのではと思われたが、どうもこの水準では高値警戒感が強くなるようで、直ぐに GDP 発表前の水準に戻ってしまった。この後、さらに米長期金利が低下し始め、ミシガン大学消費者信頼感指数が速報値から下方修正された上に、次期 FRB 議長にパウエル理事が有力との報道もあり、一気に 113 円 70 銭台までドルが売り戻されてしまった。パウエル理事がテイラー元財務次官に比べればハト派だとの認識が強いのだろう。それでも米長期金利が下げ止まってやや反発したことで 114 円ちょうど付近まで回復したが、10 月 31 日から 11 月 1 日に開かれる FOMC や FRB 議長の選出も控えており、現状の水準からは大きく乖離し難いようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。